

日本計量新報

計測と科学
毎週日曜発行
日本計量新報社

東京都江東区亀戸7丁目62-16
〒136-0071 TEL 03-5628-7070
FAX 03-5628-7071

https://www.keiryoku-keisoku.co.jp/

振替口座 00140-5-12935
購読料年間 27,500円(消費税込み)

定量計量専用機

Pack NAVI

速くハカル、
楽にツメル



Yamato

大和製衡株式会社 tel:078-918-6577
http://www.yamato-scale.co.jp/

関東甲信越計量団体連絡協 議会を結成

計量協会と計量士会が合同で運営するあ いまいさを解消

第1回計量大会を、10月28日、埼玉 県の当番で開催

2022年7月1日、関東甲信越地区の計量協会と計量士会の団体を合併して「関東甲信越計量団体連絡協議会」が設立された。従来、計量協会と計量士会の独立団体が合同で運営するあいまいさを解消した。新団体設立に伴い、関東甲信越計量団体連絡協議会会則、感謝状贈呈等基準、計量大会開催の輪番及び運営委員会設置要綱を決めた。新団体は、埼玉県の当番で、第1回計量大会を、2022年10月28日に開催する。

■行政機関や関係団体等に
提案・提言ができる団
体に

新団体は、会員間の情報交換や共通する課題の解決に努めること、さらに会員同士の交流を深め、計量団体の発展を目指し必要に応じて行政機関、関係団体等に提言・提案を行うことを目指している。

年度事業計画・予算、埼玉県で開催する大会の実施概要、感謝状受賞者などを決定した。

【新役員(敬称略)】
▽会長・小川弘(東京都計量協会会長) △副会長・横田貞一(群馬県計量協会会長)

■合同運営していたが実態が曖昧
これまで関東甲信越地区では、関東甲信越地区計量協会連絡協議会(計量協会協議会)及び「関東甲信越地区計量士連絡協議会(計量士協議会)」という独立した団体が「関東甲信越地区計量団体連絡協議会(計量団体

06年(平成18年)5月に2団体を統一した会則を策定して、以来「関東甲信越地区計量団体連絡協議会」として協議会を合同開催している。しかし、正式に統一団体が成立しているのか不明であり、運営上も、協議会では計量協会協議会と計量士協議会からそれぞれ議題が提案され、合同開催ではあるが司会者も両団



¥33,000(税抜)

協議会 という名称で、合同で団体の運営を行っていた。
従来関東甲信越地区では、計量協会と計量士会がそれぞれ独立に協議会を開催していたが、20

両団体は独自の会則を持っており、計量団体協議会の会則との位置付けが曖昧な状態で、意思決定についても明確な規定に基づかない方法で決定していることが常態化していた。
運営委員会(横田貞一委員長)は、こうした運営上の問題点を整理した上で次のテーマに分けて検討を行った。

【検討テーマ】
①新たな団体の設置目的及び会員の構成について
②会費並びに拠出金等の負担について
③団体の意思決定機関について
④感謝状の贈呈基準について
⑤その他

■運営委員会の提言
運営委員会は9回にわたる討議を経て、検討

3398・3399号
を合併号とし、10月9日
付で発行します。

テーマに関して次のように
提言した。

①新たな団体の設置目的及び会員の構成について
▽会員間の情報交換や共通する課題の解決に努めること、さらに会員同士の交流を深め、計量団体の発展を目指し必要に応じて行政機関、関係団体等に提言・提案を行うことは重要であり、現行の活動を存続させることが望ましい。

▽協議会の運営を分かりやすくするために両団体を統合する。会員は各都県の計量協会及び計量士会とする。

▽ただし、独立した「計量士会」であっても計量協会の「計量士部会」として参加することを認める。
▽計量大会は10都県の持ち回りで開催する。当番となった都県に複数の会員がある場合は、当該団体間で役割を調整し、開催する。

(2)面へつづく

今週の主な記事

- 1 関東甲信越計量団体連絡協議会を結成、第1回計量大会を10月28日開催
- 2 計量法施行令等を一部改正する政令案への意見募集結果
- 3 第27回国際度量衡総会について(国際度量衡委員会幹事 白田孝)
- 4 寄稿・阿知波正之、大井みさほ
- 5 寄稿・山田研治、都筑千秋
- 6 寄稿・岡和雄、中村和代、横須賀健治、親子計量実験教室(福島県)
- 7 社説、海外現地法人四半期調査 JASIS
- 8 2022登録来場者数
- 9 計工連・流量計の校正方法に関するJIS解説セミナー、量目立入検査結果(宮城県)、計販連が総会(11月2日)

SHIMADZU
Excellence in Science

上皿天びん
UniBloc Performance Balances
UP シリーズ

クラス最速の応答性能 はかりとり作業の効率を大幅にアップ

UPシリーズ24モデル:最小読取り0.1g~0.001g

1 はかりとり作業性向上

微量計量(最小表示値の10倍相当)の表示反応時間を約1秒に短縮

2 優れた耐久性

耐久性に優れたUni Blocセンサの採用により故障によるダウンタイムを低減
耐久試験1000万回クリア(計量法試験基準の100倍)

3 作業性を高める除電器

イオナイザSTABLO-AP(オプション)で静電気による影響を排除し
信頼性の高い計量を実現

4 PLCとの動作実績

国内主要PLCメーカー製品で動作実績があり



STABLO-AP

株式会社 島津製作所 分析計測事業部

UPシリーズの特徴を、わかりやすくムービーで解説
https://www.an.shimadzu.co.jp/balance/products/p01/up-d.htm

